

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 9 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：20592675

研究課題名 (和文)

介護保険施設の看護師への包括的ストレスマネジメント教育プログラムの開発と評価

研究課題名 (英文)

Development and evaluation of comprehensive stress management education program for nurses in geriatric health and welfare services facilities

研究代表者

百瀬 由美子 (MOMOSE YUMIKO)

愛知県立大学・看護学部教授

研究者番号：20262735

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：介護保険施設、看護職、ストレスマネジメント、教育プログラム

1. 研究計画の概要

介護保険制度が開始されて10年が経過し、介護保険施設は急増したが、全国の介護保険施設における看護職員の確保状況をみると、約3～4割の施設で採用予定数を下回っており(日本看護協会, 2004)、看護・介護職員のマンパワー不足は慢性的かつ深刻な問題である。マンパワー不足には、さまざまな要因による離職率の高さが指摘されている。その心理的要因として、上司や多職種間の人間関係から来るストレス、認知症高齢者などからの暴言、重度要介護高齢者に対する看護ケアの困難さなどから来るストレスが指摘されている(百瀬, 2007; Cohen & Noelker, 2000)。さらに介護方針の違いや職場環境、相談する人や場所がないなどがストレスを増強させていることが報告されており、職員への教育とストレスマネジメントの方策に関する研究の必要性が指摘されている(畦地良平, 2006)。

その対応策と職場満足度を高める方法として、臨床能力を高めるトレーニングや職場環境・支援体制の整備、看護師のエンパワーメントを促進させるプログラム、ストレス低減のための教育を推奨している(Laschinger et al, 2001; Bernice, 2005)。しかし、具体的なプログラムの開発や実施・評価は行なわれていない。

本研究の目的は、介護保険施設における看護師がより効果的にストレスマネジメントを実践できるようになるための教育プログラムを開発することである。この研究目的を達成するために、1) 介護保険施設に勤務する看護師のストレス、ストレス反応、およびストレスマネジメントの実態を把握す

るための調査を行い、2) その調査結果に基づき「介護保険施設における看護師のストレスマネジメント尺度」を作成するとともに看護師が効果的にストレスマネジメントを実践するための知識・能力を習得できる教育プログラムを開発する。3) 介護保険施設の看護師を対象に教育プログラムを試行し、教育方法・内容、および開発したストレスマネジメント尺度、既存のストレス測定尺度を用いて教育成果を評価する。

2. 研究の進捗状況

本研究の第一段階の目的は、1) 介護保険施設に勤務する看護師のストレス、ストレス反応、およびストレスマネジメントの実態を把握することであり、これに関しては、平成21年度にインタビューによりデータを収集した後に質的分析を行い、実態を記述した。その結果と先行文献を参考に、質問項目を作成し、平成22年度に全国規模の実態調査を実施した。その結果をもとに、第二段階の目的である、2) 「介護保険施設における看護師のストレスマネジメント尺度」を作成するとともに看護師が効果的にストレスマネジメントを実践するための知識・能力を習得できる教育プログラムを開発することを目指し、現在、調査結果の分析とともに、教育プログラムの内容の検討を行っているところである。

調査結果は以下の通りである。

(1) インタビュー調査の結果

関東・東海・関西地方の介護保険施設において研究承諾が得られた施設12か所に勤務する正規職員の看護師21名にインタビューし、施設の看護業務に起因するストレス

として、【入所者全員に対する安全管理への気遣い】【余裕がないために入所者の個別性に配慮したケアが果たせない】【入所者の状況からケアに対する明るい見通しが立たない】【看護師一人が抱えるケアが多すぎる】【施設のケア方針に制約され実施すべきと考えるケアが提供できない】【ケア以外に施設管理業務も行わなければならない】【医師が不在のために急変時の判断が要求される】【施設以外からの監視に伴う緊張感】の8カテゴリーが抽出された。

(2) 質問紙調査の結果

調査対象は、全国の介護保険施設に勤務する看護師で、データ収集は無記名による自記式質問紙法とし、WAM NET 介護事業者情報に登録されている全国の介護保険施設から2,000施設を無作為抽出し調査用紙を郵送し、施設長の承諾が得られた399介護保険施設2,230名に質問紙は配布され、2,218名の回答を得た。看護師配置の比較的多い介護老人保健施設(N=1,444)では、ストレスターの単純集計の結果、中央値が高かったのは、「医師不在時の看護判断への不安」「症状が非定型の高齢者の状態変化への対応」「転倒、感染予防への気遣い」「病院との連携」に関する項目であった。ストレスターの因子分析では、38項目9因子の構造(スタッフ間、上司とのケア方針の違い、理想のケアが提供できない、家族調整の困難、入所者からの暴力や暴言、入所者の感染拡大への不安、仕事と家庭の両立困難など)が抽出され、ストレス反応の合計得点と有意な関連性が認められた。これらの結果に基づき、ストレスターを軽減するために高齢者ケアにおける感染予防、認知症ケアの知識、効果的なアサーティブネスの実践方法などを含む教育プログラムを開発する必要性が示唆された。

3. 現在までの達成度

②質的・量的アプローチによる調査の実施が予定通り遂行でき、「おおむね順調に進展している。」

4. 今後の研究の推進方策

平成23年度は、第三の目的である、3)介護保険施設の看護師を対象に教育プログラムを試行し、教育方法・内容、および開発したストレスマネジメント尺度、既存のストレス測定尺度を用いて教育成果を評価するために、教育的介入と評価を行う予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 松岡広子、百瀬由美子、渡辺みどり、奥野茂代、横矢ゆかり、藤野あゆみ、赤塚

大樹：介護保険施設に勤務する看護師が体験する役割ストレス，日本看護福祉学会誌，15(2)，149-161，2010. 査読有.

[学会発表] (計6件)

- ① Y.Momose, H.Matsuoka, A.Fujino, N.Amaki, M.Watanabe, S.Okuno, D.Akatsuka : The relationship between job-related stressors and stress responses of nurses working in intermediate nursing homes in Japan. 26th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2011,3. 27.Toronto, Canada.
- ② 百瀬由美子、横矢ゆかり、松岡広子、藤野あゆみ、渡辺みどり、奥野茂代、赤塚大樹：介護老人保健施設における看護師のストレスの実態、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月3日、北海道・札幌市。
- ③ 横矢ゆかり、百瀬由美子、松岡広子、藤野あゆみ、渡辺みどり、奥野茂代、赤塚大樹：介護老人保健施設における看護師のストレス反応の実態と個人属性との関係、日本老年社会学会第52回大会、2010年6月17日、愛知県名古屋市。
- ④ 百瀬由美子、横矢ゆかり、松岡広子、藤野あゆみ、渡辺みどり、奥野茂代、赤塚大樹：介護老人保健施設における看護師のストレス反応と職務満足度との関係、日本老年社会学会第52回大会、2010年6月17日、愛知県名古屋市。
- ⑤ Y.Yokoya, H.Matsuoka, Y.Momose, A.Fujino, M.Watanabe, S.Okuno, D.Akatsuka : Stressors and stress management styles of nurses working with dementia patients in long-term care settings, 25th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2010,3,10. Thessaloniki, Macedonia-Greece.
- ⑥ 松岡広子、百瀬由美子、渡辺みどり、藤野あゆみ、横矢ゆかり、赤塚大樹、奥野茂代：介護保険施設に勤務する看護師が体験するストレス -施設における看護業務に起因するストレス-に焦点を当てて一、日本老年看護学会第14回学術集会、2009年9月26日、北海道・札幌市。

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他] なし